

プレスリリース

2023年5月30日
国境なき医師団 (MSF)

ケニア：ダダブ難民キャンプに迫り来る健康危機——資金援助が急務

ケニア北東部に位置し、3つの難民キャンプで構成されるダダブ難民キャンプには、30万人を超える難民が暮らしており、そのほとんどが隣国ソマリアからの難民である。ソマリアの長期にわたる干ばつにより、ここ数カ月で人口が急増。深刻な過密状態となり、水やトイレなどの既存の生活インフラへの負担が増加している。

国境なき医師団 (MSF) はキャンプで起こり得る健康被害を回避するには、緊急に追加の資金援助が必要だと警鐘を鳴らし、キャンプ内の不衛生な環境と過密状態の改善に向けて、援助国や資金拠出機関、民間の寄付者や援助機関に直ちに対応するよう呼び掛けている。

深刻なコレラの流行

ケニアで MSF の活動責任者を務めるハッサン・マイヤキは、「事態の深刻さは、特に水と衛生の分野で緊急の対応を必要としています。過去 5 年間で最悪のコレラ流行がすでに起きており、他の感染症が流行するリスクも高い。もしそうなれば、キャンプ内の医療体制では間に合わず、壊滅的な結果を招く可能性があります」と指摘する。

ダダブ難民キャンプを構成するキャンプのうちの 1 つ、ダガレイで病院を運営する MSF のチームは、ダガレイだけでも、2022 年 11 月のコレラ流行開始以来、1120 人以上のコレラ患者と 2 人の死者を報告している。

現在のコレラの流行は、清潔な水の供給、石けんの配布、トイレの設置と修理、廃棄物管理体制の整備など、キャンプ内の水と衛生関連活動の減少に関連している。現在、キャンプで活動する人道援助団体によると、人口のほぼ半数が機能的なトイレを利用できず、キャンプ内外で野外排せつをすることで、病気の流行リスクが高まっているという。

水・衛生設備の整備が必須

ケニア保健省や人道援助機関は、コレラの予防接種や健康推進キャンペーンを展開し、人びとが病気から身を守れるようにしたが、流行を抑えるには、水や衛生に関連する設備の改善が必要である。

ケニアで MSF の医療コーディネーターを務めるニティア・ウダイラージ医師は「健康推進活動と集団

予防接種を行っていますが、長期使用にたえる上下水道や衛生設備の整備に優先的に資金援助しなければ、コレラの流行を抑えることはできません。質と規模が改善されなければ、E型肝炎のような他の感染症がキャンプで発生するのも時間の問題です」と話す。

国際的な援助を

新たに約 9000 人の難民がキャンプ郊外の砂漠に到着し、簡素な避難所を構えて生活している。MSF の水・衛生チームは現在、毎日 5 万リットルの飲料水をトラックでキャンプの郊外に運び、ここ数週間で、キャンプ内外に 150 基の公衆トイレも設置。これまでに、約 1000 世帯にビニールシート、マット、液体石けんを配布した。しかし、人びとのニーズを満たし、人道危機を防ぐための課題は山積している。

ケニア政府は、新たに到着した人びとを受け入れ、既存のキャンプの負担を軽減するために、第 4 のキャンプであるイフォ第二キャンプを再開する計画を発表した。MSF は、これらの計画が迅速に策定され、難民にとって最低限必要な生活水準を保てるように、4 つのキャンプ全てを対象とした上下水道と衛生分野への資金援助の増加を要請している。

さらに MSF は、国際社会、援助国、資金拠出機関・民間寄付者に対し、ダダブの危機的状況への対応を急ぐとともに、劣悪な衛生環境に対処し、病気の拡大防止に向けて即座に対策を講じるよう要請する。また、長期的には、MSF はケニア政府と国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）に対し、ダダブ難民キャンプから動くことができない難民のために、恒久的な解決策を見つけ出すことも求めている。

ダガレイ、イフォ、ハガデラの 3 つのキャンプには現在、難民登録を済ませた人 24 万 5000 人以上がおり、その多くは 30 年以上キャンプで暮らしている。キャンプには、2022 年に到着した 6 万 7000 人を含む、12 万 4000 人以上の未登録の難民もいる。

2023 年 1 月、MSF はダガレイ・キャンプ郊外に新たに到着した難民を対象とした医療活動にあたるため、さらに 2 つの診療所を設置。MSF は、32 年にわたるキャンプの歴史のほとんどにおいて、ダダブとその周辺で医療を提供している。MSF の現在の活動は、ダガレイ・キャンプを中心に行われており、簡易診療所 2 カ所と、ベッド数 92 床の病院を通じて、難民と地元の人びとを対象に総合的な医療を提供している。MSF は一般的な医療に加えて、産科緊急手術を含むプロダクティブ・ヘルスケア（性と生殖に関する医療）、性暴力の被害者を対象とした医療と心のケア、在宅インシュリンケア、緩和ケアなども展開している。

以上



本件に関するお問い合わせ先：

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本 広報担当：舘 俊平、山田瑞穂

携帯：080-2344-0684

E-mail: press@tokyo.msf.org <https://www.msf.or.jp>

 メディア向けツイッターアカウント：@MSFJ_Press